

理系大学院進学経験談

院進 A 班王雪萌

2018年3月、大連外国語大学ソフトウェア学院の3年生だった私は、インターンシップに参加せず日本で進学することを決めました。大学の先生のご紹介で、私は亜細亜友之会外語学院の石川先生とコンタクトをとりました。そして、先生方のアドバイスの下で自分の進学スケジュールを立てました。

2019年9月、上智大学大学院修士課程の合格通知が私の手元に届きました。これまでの一年半を振り返って、悔しく後悔したこと、そして感謝したこと等々がたくさんありました。卒業をひかえている今、私の経験を後輩達と共有し、同じく理系大学院の進学を考えている皆さんの参考になれば大変ありがたいと思います。

私の専攻の全称はパソコン科学と技術(日英強化)で、大学1年と2年生の時は、毎週日本語授業と英語の授業を受けていました。大学2年生の時に、私は日本語能力試験N2に合格しました。大学の先生が、N2に合格できれば日本で理系大学院の出願の際は有利であることを教えてくださいました。しかし、日本語能力のみでは足りません。英語の成績も重要視されていることも知りました。当時私の英語のレベルがそれほど高くなく、中国の大学英語4級をクリアするのもやっとの程度でした。先生のアドバイスで私はTOEFLの特化授業に参加することになりました。大学の授業を受ける傍ら、TOEFLの受験勉強をしていました。最終的に88点を取りました。

亜細亜友之会外語学院に入学し、学校主催の進学説明会に参加したことで自分の足りない部分がたくさんあったことに気づきました。それは、日本語の会話力、専門知識の不足、研究の方向性が不明確であったことです。私は、最初の半年間を使って自分の長所と短所をはっきりさせ、自分が興味を持つような研究内容、それから研究の方向性と志望大学を明確させることに専念しました。

まず、大まかな目標を関東地区にあるMARCHとそれ以上の大学にしました。この条件にあった大学のホームページを約2か月かけて目を通しました。研究室の近年の研究テーマ、在籍者に留学生はいるか否か等を重点に置いてリサーチし、ノートにまとめました。私の場合、理系であるプログラミングと文系である日本語を専門に大学で学んだ経歴が強みです。総合的に考え、最終的に外国語教育における音声処理関連の研究にたどり着きました。次に、この方向性の下で学校の先生にアドバイスを頂き、理系専攻偏差値ランキングを参考に、「外国語教育を重視する」、「国際色豊か」といった特徴を備えた上智大学の理工情報学科を志望大学にしました。初期の目標設定は進学プロセスの基本となっていますが、あまり時間をかけすぎても良くないことです。適当に選択をしてのちに後悔するのも良くないと思います。

志望大学と研究の方向性を明確した後に、私は以下の通り事前準備をしました。まず、募集要項と過去問の申請と募集要項を読み込みました。①試験の形式と内容を把握しました。例えば、指導教授との事前連絡、研究計画書提出の有無や、筆記試験をなくし、面接で書く問題が出題されるように、試験形式の変更点の確認などが必須です；②必要書類をリストアップし、早めに家族と学校の先生に必要な書類の用意を頼みます。最新の募集要項を入手する前に私は以下の準備をしました。日本語の会話力、英語能力の強化、数学など試験必須科目の勉強、関連論文や本の閲覧と研究計画書の作成です。

筆記試験の準備をする段階で重要なのは自分の強みと弱みをはっきりさせることです。私の場合、数学が弱点でした。ただ、それぞれ大学の数学の出題範囲は決まっていて、パターンがあることが分かりました。そのパターンを覚え、必ず解けるという意気込みで準備に臨みました。そうすることによって、数学で他の受験者との差が開かない狙いがあります；私の得意なコンピューターシステム、データの構成といったタイプの問題では、できる限り高い点数をとり、他の受験生との差をつけます。専門知識部分の正解率を確保しつつ、文法的ミスをできるだけ減らすようにしました。

面接は留学生にとってもう一つの難関です。面接の練習や準備をするにあたって、亜細亜友之会外語学院の先生方、特に大澤先生と宮原先生からたくさんの貴重なアドバイスやご意見を頂いたことに感謝を申し上げます。先生方は休みの時間を利用して、研究計画書の文法のチェックをしてくださいました。面接練習担当の岩崎先生が、礼儀をはじめ、文法やロジック性まで細かいアドバイスをしてくださいました。生活面でぶつかった難題などは学校の先生方も熱心に手伝ってくださいました。筆記試験であまり良い点数を取れなかった私が合格できたのは、面接で聞かれた質問の多くは事前準備、練習段階できちんと準備できたからだと思えます。

研究計画書の作成をはじめ、教授とコンタクトをとり、筆記試験や面接、いずれも私にとって簡単ではない挑戦でした。しかし、振り返れば、いずれもきちんと用意をし、目標をはっきりさせ、並々ならぬ努力を重ねて行けば、最終的に良い結果につながることに気づきました。

最後に、後輩の皆さん、そして私自身に言いたかったのは、合格は終わりではないことです。私たちはこれからも前へ進んでいかなければならないのです。近い将来、私たちは日本人と一緒に勉強、そして仕事をする機会が訪れてくるでしょう。日本語学校で勉強できる時間を大切にしてください。これからも一緒に頑張っていきましょう！